

1790s 南畝／本文[1941]20-2 [横浜椎園本、原類考 26-191]

[1941 大曲駒村／浮世繪類考 20-2]

寫樂

是また哥舞伎役者の似顔を寫せしが、あまりに眞を畫んとてあらぬさまにかきなせしかが、長く世に行はれず。一兩年にして止む。

三馬按、寫樂號東洲齋、江戸八丁堀ニ住ス。僅ニ半年餘行ハルノミ。

1815 浮世繪類考・曳尾庵 22[1932 島田][1932 島田筑波／浮世繪類考曳尾庵本、孚水ぶんこ 4]

[1941 駒村頭註]○寫樂。俗稱は十郎兵衛。寛政頃の人。

[1997 雁註]寫樂は谷素外(1734-1824)。重政、政演、政美、豊國の俳諧の師。

一本ニナシ

寫樂

東洲齋寫樂

これまた哥舞伎役者の似顔をうつせしか、あまりに眞を畫かんとてあらぬさまにかき

一本ニナシ

なせしかは、長く世に行はれず一兩年にして止ム (割書)しかしながら筆力雅趣ありて賞すへし。

1833 英泉／浮世繪類考・无名翁隨筆 209-4 [1907][1907 市島謙吉／燕石十種 2-209d。國書刊行会]

[1979 森・野間・朝倉／燕石十種 3-296a。中央公論社]

○寫樂 年ノ人

俗稱 號東洲齋 住居八丁堀

歌舞伎役者の似顔を寫せしに、あまりに眞を畫んとて、あらぬさまに畫なせしかば長く世に行れず。一兩年にして止む(類考)

三馬云、僅に半年餘行るゝのみ

五代目白猿、幸四郎(後、京十郎と改)半四郎、菊之丞、富十郎、廣治、助五郎、鬼治、仲藏の顔を半身に畫きたるを出せし也。

1844 月岑／増補浮世繪類考 46-3[1891][1891 岸上操／温知叢書 4-46-3]

○寫樂(住居江戸八町堀)俗稱□□ 號東洲齋

[頭註]新類考に俗稱齋藤十郎兵衛とあり。

歌舞伎役者の似顔を寫せしに、あまりに眞を畫んとて、あらぬさまに畫なせしかば、長く世に行はれず。一兩年にして止む(類考)

三馬云、僅に半年餘行はるゝのみ 五代目白猿 幸四郎(後宗十郎と改)半四郎 菊之丞(富十郎)廣治 助五郎 鬼治 仲藏の類を半身に畫きたるを出せり。

1844 月岑／浮世繪類考・自筆本 2-08b[1844 齋藤月岑／増補浮世繪類考 2-08b]

[1964 板坂 + 棚町／近世文芸・資料と考証 3 / 26c]

○寫樂 天明 寛政年中ノ人

俗稱 齋藤十郎兵衛 居江戸八丁堀ニ住す 阿波侯の*能役者也

号 東洲齋

哥舞伎役者の似顔を寫せしが あまりに眞を畫んとて あらぬさまに 畫なせしかハ 長く世に行れず 一兩年にして止む[類考]

三馬云 僅に半年餘 行るゝのみ

五代目白猿 幸四郎[后京十郎と改]半四郎 菊之丞 富十郎 廣治 助五郎 鬼治 仲藏の類を半身に画 廻りに雲母を摺たるもの多し。

*能役者、これは漢文の読みで、「役者を能くする」意。能楽師ではありません。
月岑が誤解、誤読して、以後、各氏が能楽師(申楽)と決め付けてしまいました。